

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年6月29から7月5日回答分）

日本麻酔科学会COVID-19 対策特別委員会は2020年6月29-7月5日に全国の認定病院に対してアンケートを行いました。

質問内容

”本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思っておりますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち今回は102施設から回答がありました。

施設合計の手術室数は861室でした。この数字は前回のおよそ4分の1程度です。そのうち6室(0.7%)がCOVID-19専用の手術室として準備されていました。今回は何らかの理由で制限されている手術室数が24室で全体の2.8%でした。COVID-19専用部屋の数も減少しているようです。全体として調査期間に7741件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると91.6%で、前回90.0%からさらに改善傾向でした。

今回は関東圏は東京都で91.1%、神奈川県で91.9%と90%を超えていますが、関西圏では大阪府82.1%、京都府86.9%、兵庫県89.8%と90%は超えていませんでした。今回は回答数が少なかったため、次回は是非入力をお願いいたします。

本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会COVID-19対策特別委員会は本調査を毎週継続して行い、報告していきます。